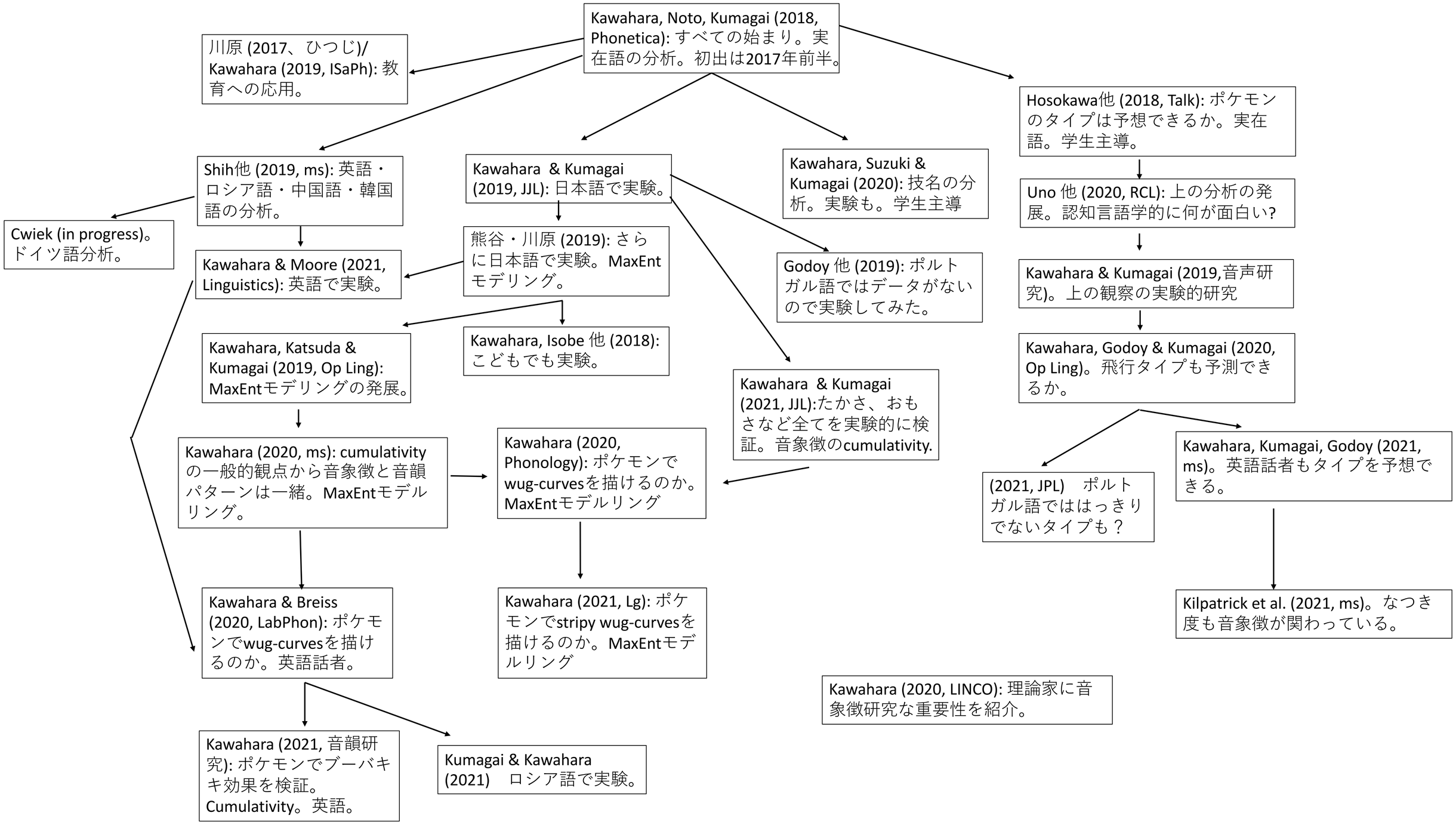
Kawahara, Noto, Kumagai (2018, Phonetica): すべての始まり。実在語の分析。初出は2017年前半。
川原 (2017、ひつじ)/ Kawahara (2019, ISaPh): 教育への応用。
Shih他 (2019, ms): 英語・ロシア語・中国語・韓国語の分析。
Cwiek (in progress)。ドイツ語分析。
Kawahara & Moore (2021, Linguistics): 英語で実験。
Kawahara, Katsuda & Kumagai (2019, Op Ling): MaxEntモデリングの発展。
Kawahara (2020, ms): cumulativityの一般的観点から音象徴と音韻パターンは一緒。MaxEntモデルリング。
Kawahara & Breiss (2020, LabPhon): ポケモンでwug-curvesを描けるのか。英語話者。
Kawahara (2021, 音韻研究): ポケモンでブーバキキ効果を検証。Cumulativity。英語。
Kumagai & Kawahara (2021) ロシア語で実験。
Kawahara (2020, Phonology): ポケモンでwug-curvesを描けるのか。MaxEntモデルリング
Kawahara (2021, Lg): ポケモンでstripy wug-curvesを描けるのか。MaxEntモデルリング
Kawahara & Kumagai (2019, JJL): 日本語で実験。
熊谷・川原 (2019): さらに日本語で実験。MaxEntモデリング。
Kawahara, Isobe 他 (2018): こどもでも実験。
Kawahara, Suzuki & Kumagai (2020): 技名の分析。実験も。学生主導
Godoy 他 (2019): ポルトガル語ではデータがないので実験してみた。
Kawahara & Kumagai (2021, JJL):たかさ、おもさなど全てを実験的に検証。音象徴のcumulativity.
Hosokawa他 (2018, Talk): ポケモンのタイプは予想できるか。実在語。学生主導。
Uno 他 (2020, RCL): 上の分析の発展。認知言語学的に何が面白い?
Kawahara & Kumagai (2019,音声研究)。上の観察の実験的研究
Kawahara, Godoy & Kumagai (2020, Op Ling)。飛行タイプも予測できるか。
(2021, JPL) ポルトガル語でははっきりでないタイプも？
Kawahara, Kumagai, Godoy (2021, ms)。英語話者もタイプを予想できる。
Kilpatrick et al. (2021, ms)。なつき度も音象徴が関わっている。
Kawahara (2020, LINCO): 理論家に音象徴研究な重要性を紹介。